

# ドクター + 教えて

## 「膵がんは治る病気です」

磐田市立総合病院  
第2医療部長兼消化器外科部長兼  
救命救急副センター長

おろあひひてと  
落合 秀人



膵臓すいぞうがんと聞くと、治療の難しい大変な病気だという印象をお持ちでしょう。全国統計では診断後5年の生存率は9%台です。ただし手術で切除出来た患者さんに限れば5年生存率は25%まで上昇し、早期（1期）では50%近くまで治療成績が良くなります。胃癌や大腸癌に比べると決してよくありませんが、早期の発見・治療で治る確率は上がる病気なのです。

しかし通常の健診では早期発見は難しいため、最近、膵がんの危険因子が注目されています。すなわち①膵癌、膵炎の家族歴②糖尿病③慢性膵炎④肥満⑤喫煙⑥飲酒習慣等です。これらに心当たりがあれば膵がんが心配なら、かかりつけのお医者さんに相談しましょう。

精密検査の結果、膵がんと診断されても、早期の適切な治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療、またはそれらの組み合わせ）によって病気が治る確率が上がります。膵がんの治療の中心は手術ですので、専門医による適切な手術を受けることが大切です。

当院は肝臓、胆道、膵臓の高度な手術を安全に行える「肝胆膵高度技能専門医」を育成する施設（A）として日本肝胆膵外科学会から認可を受けています。2017年の段階で静岡県西部地区のA施設は当院のみであり、私自身、高度技能専門医として肝胆膵の高難度手術に携わっています。また当院には膵がんの診断機器や抗がん剤治療室、精密な放射線治療の設備や専門医もそろっており、膵がんの総合的な治療を行う体制が整っています。

早期発見としっかりした治療で膵がんは治すことが可能です。我々と一緒に膵がんに立ち向かってみませんか？

## インフルエンザについて

◎磐田市立総合病院 感染対策室  
代 0538-3815000  
FAX 0538-3815050

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる感染症で、発症すると38℃以上の発熱、関節痛などの症状がみられます。健康な方であれば数日間ですぐに良くなるのですが、高齢者や慢性疾患にかかっている方は重症化する恐れがあります。

ただ、接種後すぐに効果が表れるわけではありません。流行する前に医療機関を受診し、接種することをお勧めします。

インフルエンザ対策の基本原則は、「うつらない、うつさない」です。インフルエンザウイルスは、主に咳やくしゃみの際に出た「しぶき」によって感染するため、人ごみでは「しぶき」を浴びたり、付着しているところに触って感染する危険性があります。

特に免疫力が低下している高齢者や妊婦、慢性疾患にかかっているご家族と同居されている方は、ご家族全員でワクチン接種と感染予防に努めることが望ましいと考えます。

「うつらない、うつさない」ためには、次のことを心掛けましょう。

- ①人ごみへの外出をできるだけ避ける
- ②外出時の際はマスクを着用する
- ③帰宅後の手洗い・うがい

また、インフルエンザワクチンの接種も重要です。ワクチンを接種することで発症を抑えるだけでなく、重症化に伴う入院や、命を落とす危険性を避けることができるといわれています。

患者さんへの感染を予防するため、咳や鼻水、発熱などの症状があるときは面会をご遠慮ください。また来院される場合は、マスクの着用と手洗いを行い感染予防にご協力をお願いします。

くらしの  
+  
情報